

44. 労働衣服の研究

農作業衣の損傷に関する実験

新潟大教育 玉木 シゲ

1. 前回の研究発表において述べた通り、新潟県の農・山・漁村で着用されている労働衣服が自然的・社会的条件や作業の種類、内容と極めて密接な関を持っていることは明らかである。一般に労働をする時に着用する衣服は、耐久力とあわせて、まず第一に堅牢であることが要求される。中でも農作業衣は、その作業内容から考えて物理的、特に化学的損傷を受ける機会が多いのである。本研究は、農作業衣に使用されている各種材料について諸条件のもとに損傷及び強度実験を試みた。

2. (1)土壌が被服材料に及ぼす影響について、実験材料には紺木綿、緋木綿、縞ビニロンを用い、一定期間各種の泥に漬けて置いたものについて摩擦を与えてその性能の変化をしらべ、また引張り強度と伸度も実験し、それらを新しい材料と比較検討した。なお織物組織、繊維の形態の変化については顕微鏡で観察して写真に撮り、スライドにもした。(2)直射日光に対する堅牢度については紺木綿と晒木綿を実験した。(3)稲刈り作業時の手袋の着用実験は純綿製とナイロン混紡製を比較した。(4)左右の膝当て布に縞木綿と縞ビニロンをそれぞれ使用したモンペを着用、作業実験して堅牢度を比較した。

3. 実験の結果土壌に汚染されることによって材料の堅牢度が減少すること、また土壌の性質によって影響が異なること、日光照射による影響、合成繊維が摩擦に対していちじるしく強いこと等が明らかになった。